

飛翔OB会

同窓会
報

令和2年3月2日
第27号

第39回青森県高等学校総合文化祭 美術部門 最優秀賞受賞

令和元年10月25日、弘前市文化会館で開催された青森県高校総合文化祭美術工芸部門において、美術コース2年生の清藤百花さんが最優秀賞、同コース2年生の原杏美さんが優秀賞を受賞しました。清藤さんと原さんは、共に描写力の高さが評価されました。本校の最優秀賞受賞は4年連続で10回目となります。2人は、青森県から7人が選ばさ

れる全国大会の出品者に決定しています。以下は最優秀賞を受賞した清藤百花さんの感想です。
この作品のタイトルは「生」。私が生きて生活することは絵を描くことです。絵を描く場所であるアトリエの中で、強い視線をこちらに向けて見つめる人物を描きました。特に気を配って描いたところは、窓から差す光の表現と、人物の表情です。光の表現は、色相を幅広く使い、豊かな画面を目指しました。人物の表情には、意志の力を感じさせたかったです。最優秀賞を受賞したと聞いたときはとても驚きました。審査員の先生に、自分の制作意図を思っていた以上に受け取ってもらっていたのがうれしかったです。今後この経験を活かして、新しい作品制作に挑戦していきたいです。



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、無事に高校生活を終え、新たな人生に旅立つお子様の船出を心よりお祝い申し上げます。在校生の後輩諸君を含め、皆さんは事あることに保護者の方や先生方に「正直であれ！」と言われ続けてきたと思いませんか。しかしながら、人間は物事が自分に不利に働きそうになると、とっさにごまかしたり、嘘をついたりしてしまうことがあります。嘘をついていいなど決して教わっていないわけではないのに、なぜでしょうか。

『新たな人生に向けて ～正直であること、堂々と生きること～』

同窓会会長 岩 淵 義 昭



嘘は、言葉による自己防衛です。動物であれば外部の天敵に対し、保護色や擬態などでカモフラージュし、身を守る必要があるでしょう。人間は社会の中で、言語を用いて「敵」をあざむき、自己防衛をします。明治の教育者で、哲学者でもある安倍能成（よししげ）という方がおられます。後に学習院大学院長を20年近く務めたとても優秀な人物です。彼は子供の頃成績がよく同級生からも一目置かれる存在でしたが、実は彼にも嘘にまつわるエピソードがあります。中学時代に試験の答案を間違ったにもかかわらず、正解したと言いつ張ったのだそうです。それを知った彼の先生は、「何より大事なことは正直である。真実にやっただけは、誤魔化しや

嘘はそれ以上塗りの連鎖をし、いつまでも本当のことは生まれぬ。」と論じたと言います。安倍は大学時代夏目漱石を大変慕い、教えを乞うて集う門下生のグループ「木曜会」の一員でした。漱石は「謡（うたい）（伝統芸能である能の声楽部分）」という芸事を好んでいました。稽古もしましたが、あまり上手ではなかったようです。ある日安倍は、そんな漱石の趣味について「私は先生の謡は嫌いです。」と言いつ放ち、漱石を激昂させてしまいました。こんな逸話が残っていると分るの好き嫌いははっきり言う、実直な人柄であることがうかがえます。おそらく中学時代の「正直であれ」という恩師の言葉を中心に深く刻み、座右の銘としていたのではないのでしょうか。

減な話や嘘で自分の人生を台無しすることなく、正直であつてほしいと思います。また一方で、若者は失敗を恐れず、自信をもって堂々と生きて欲しいとも思います。初めは根拠の無い自信でいいのです。可能性を否定してマイナスイ思考でいては、実力は発揮できません。年齢や経験を重ねて役職や地位が向上した時、根拠のない自信が本物の自信へと変わっていくべきなのだ、と考えて、勇気をもって物事に挑戦してください。世界に目を向けると、相変わらず自国の防衛や権力の構築のため、争いを続ける国や地域が絶えません。それに比べ我が国は平和に、そして豊かになったと言えます。今年には東京オリンピックが56年ぶりに日本で開催され、スポーツの祭典で美しい闘いが見られるでしょう。これから皆さんはこの平和で豊かな国に生を受けたことに感謝し、世界に存在する貧困の解消に寄与していただきたいと思えます。そのためには自己鍛錬を怠らず、自立した大人として成長しなければなりません。嘘で塗り固められた自己防衛で身を縮めるのではなく、潔い正直さを武器に、胸をはって人生を歩み、その証を残してください。

二高教員インタビュー 還暦を迎えられた先生方からのメッセージ

◎今年度で還暦を迎えられた先生方より、教員生活を振り返っての思い出と、OB・OGの皆様へのメッセージを載せました。



【萩原修一先生】

☆これまでの思い出とOB・OGの皆さんへ
卒業生の皆さん。在校生の皆さん。暑い日も寒い日も、楽しいことや嫌なことがあった日も、顔を上げて、元氣ある挨拶をしてくれました。
教員主導から生徒のアイデアあふれる二高祭になりました。見事なダンスと声を限りの応援合戦が熱く、まさに生徒が主役です。部活動が活躍してくれました。県大会どころか全国大会に進む部がたくさんあります。
カナダとオーストラリアの語学研修、ワシントンDC、ケンタッキー州とのKAKEHASHI

プログラムなど、いろいろな国際交流にたくさん参加してくれました。
45年を経過し、あちこちにガタがきているのに、毎日きちんと掃除をしてくれ、きれいな校舎にしてくれています。
卒業生の皆さん。在校生の皆さん。二高生の皆さんの挨拶と笑顔と活躍のおかげで、私は38年間救われました。
ありがとうございます。

煙ぶり続けてた消えそうな輝きを弾けさせ、い年の取り方をしている
と見かけだけでも褒められるよう、残りの人生を歩みたいと思います。
続けるしか道はない
僕が歩むべき道さ
元氣であれば 今日と明日 繋げれば人生

【石塚利孝先生】



☆これまでの思い出
私は二高の第一回入学生です。創設されたばかり

りの学校は、先生と生徒が一緒に、「一からつくりあげる。」という気持ちに溢れていました。あれから45年。いつも二高は卒業生とともに、ただ懸命に前に進んできました。そして今、附属中学校の教員をしながら、再び「一からつくりあげる。」立場にいることへの不思議さを感じながら、ここまで育ててくれた二高へ感謝しています。

☆OB・OGの皆さんへ
卒業生の皆さんお元氣ですか。皆さんとの間には、多くの楽しい思い出、いくつものつらい思い出があります。
私は、人に誇れる能力や技能がありません。いつも他の先生をうらやましく思っただけです。せいぜい、黒板に絵を描くぐらいしかできませんでした。でも、自分が教員を続けることができたのは、経験できないことを本を読むことで補い、時間がかかっても前に進むことをやめなかったからだと思います。前に進みましよう。いつか目の前が開けてきます。



【太田芳明先生】

☆これまでの思い出
教員の仕事の90パーセント以上が、学級担任としての仕事でした。毎日生徒との顔合わせから始まり、生徒とさようならで一日を終える日々でした。大きな病気や怪我もなく、健康的な教員生活を送ることができ、支えていただいた周囲の皆様に、感謝を感じざるをえません。さらに、関わった数多くの生徒のみんなからは、多くの喜びや感動をいただきました。人にものを教える立場でありながら、教えたことよりも教えられたことの方がどれだけ多いかは計り知れないほどであることは間違いありません。そして、卒業生を出すと、心のこもった言葉や記念品などを頂くばかりで、何ら恩返しをすることができないうちに気が付けば還暦を迎えていました。今日に至る一日一日がすべて思い出です。ありがとうございます。

☆OB・OGの皆さんへ
二高のOB・OGの皆さん、長い間大変お世話になりました。教員という

う仕事は、生徒の皆さんがいなければ、全く成り立たない、存在価値のない仕事です。つまりOB・OGの皆さんが存在しなかったならば、私自身の存在があらえなかったわけです。しかも、前文にも書かせていただきましたように、仕事の大部分が学級担任であったというところは、紛れもなく、皆さんあつての私の人生であつたと言わなければなりません。実は、人生や仕事は教員に限らずこのような要素、性質を持つているのですが、教員という職業ほどこのことを、気づかせてくれる仕事は他にはないのではないかとすら思っています。そんな感謝の気持ち、心を、気づかせてくれた皆さんに心から感謝しています。大変ありがとうございました。二高のOB・OGの皆さんの明日に多大な幸と弼業あれと願っています。

☆OB・OGの皆さんへ
「今のこの瞬間を一生懸命に生きる」ことに夢中で過ごしているうちにあつという間にこの歳になつてしまいました。一番の思い出は、二高の数学精選問題集を作成したこと。日頃からプリント教材を作成していましたが、高校数学の全てをプリント化し終えた頃、これを書籍化できないかと考えていました。毎日午前2時過ぎまでのパソコン作業を2年間続け、印刷会社から書籍として運ばれてきたときの喜びは忘れられません。

【鎌田進先生】



☆これまでの思い出
「今のこの瞬間を一生懸命に生きる」ことに夢中で過ごしているうちにあつという間にこの歳になつてしまいました。

教育内容の改定によって、今では商品にならないのが残念ですが、今でも現役の塾講師の方から「あの精選問題集を今もフル活用しています」という連絡をいただくこともあります。本校の教員以外の方のお役に立てているのかと、感慨深いものがあります。
この先も、生涯、挑戦し続ける人生でありたいと思います。

☆OB・OGの皆さんへ
全国各地、各界で活躍されているOB・OGの皆さんの様子を新聞紙上で知り、また、さまざまに機会に耳にしています。直接にメッセージをいただいたり、お誘いをいただいたこともあり、そのたびに感謝、感激しております。



【紀室治先生】

☆これまでの思い出
大学4年生の時、二高の生物教員募集中の情報に「硬式テニス部ありますか?」と問い合わせると、できたばかりとの返答。特進コースを受け持つので顧問にはつけない、とわかつたのは赴任してからでした。それでも毎日が充実していたのは、八甲田登山や大学訪問、法光寺での座禅体験など、クラスで自由にやらせてもらったからだと思えます。そのうち自分たちでラグビー愛好会?みたいな活動する生徒が出てきたり、自分も顧問に就きましたが、この教員生活のスタートが、今で言う生徒個々の多様性に寄り添う気持ちの大切さを教えてくれたと思っています。

☆OB・OGの皆さんへ
年齢からでしょうが、頻りに街で声をかけていただくことの多い昨今で

く羽ばたいて欲しいと願っています。
時々、顔を見せに来ていただければとても嬉しく思います。ご活躍を期待しています。

す。「二高の先生ですよね。理科習いました。」「テニス部まだやってますか」「私わかりますか?」...。デバ地下、朝市、居酒屋、ガソリンスタンド、ぼんやり、のそのそ、だから。およそ緊張感のない出で立ちで歩いているから少し恥づかしい。時には朝市で長ネギ背負っているのが、挨拶で頭下げるとネギが二ヨッキリ顔をだす。まるで鴨ネギ状態。

でも、ありがたい。当時の学校に、若い自分、楽しい日々、戻らせてもらっている。どうかこれからも、出会った時は声をかけて下さい。皆さんよろしく。

【四戸盛先生】
☆これまでの思い出
なんととっても昭和63年、ラグビー部が部に昇格したときが一番の思い出です。昭和61年の生徒総会でT君がラグビー部創部を全校生徒に訴えたことが大きなきっかけとなりました。ラグビー部を作る会から始まって創部まで4年かかりました(長かった)。公式戦初



【和田浩子先生】
☆これまでの思い出
初めて担任として卒業生を送り出したクラスは理系で女子が多いクラスでした。そして女子のほとんどが看護師を目指していました。当時は、看護学校の情報がほとんど無く、生徒達と手探り状態で調べて、昼休みと放課後はすべて面接練習と小論文指導にあてました。そして最後の一人が最後



まで(国公立後期試験まで)頑張つて合格できました。そのときから、二高生は本場に優しい人が多いなと思っていました。人の役に立ちたい、手助けしたいと言うのです。今でも相変わらず医療系を志す二高生がたくさんいます。医療系でなくても皆が人のためになることをしたいと言っています。これは卒業してからも変わらない二高生の良さだと思っています。

☆OB・OGの皆さんへ
ここ2年ほど健康について考えさせられる事が多くありました。生徒会誌「青嶺」の卒業生への一言メッセージには、毎年「健康第一」と書き続けていますが、いよいよ自分へのメッセージになってきました。

何をすることも体が資本です。卒業生の皆さんも無理せず健康には十分気をつけて活躍下さい。

☆OB・OGの皆さんへ
担任として卒業式を迎えた朝、その年に退職が決まっていた校長先生のもとへ、感謝の気持ちから花束を持ってクラス全員が挨拶に校長室に伺いました。校長先生は大変喜ばれ、卒業式の式辞の中で、アドリブで、このことに触れてくださいました。

私の好きな言葉に上杉鷹山の次の言葉があります。
成せばなる 成さねばならぬ 何事も
成らぬは人の為さぬなりけり
しかし、さらに考えてみると、自分が成すことができるためには周囲の人のたくさんの支えがあったらばこそだと思つたのです。感謝の気持ちを持ち続けることこそが大切だと思つた今日この頃です。

**第44期
定例幹事総会開催**

平成31年3月23日午後6時より八戸パークホテルにおいて、「第44期八戸工業大学第二高等学校同窓会定例幹事総会」が開催されました。
岩淵会長の挨拶のあとに、議題の審議が行われました。

第一号議案

「第43期平成30年度活動報告及び会計報告」
会計報告の前に柄本前監事より会計監査報告があり、審議の結果、全会一致で承認されました。

第二号議案

「第44期平成31年度(令和元年度)活動計画及び予算案」
審議の結果、全会一致で承認されました。

第三号議案

「役員改選」
新任として、副会長に柄本俊一氏(14回生)、監事に越後林寛之氏(21回生)、常任理事に関野洋史氏(10回生)と西塚務氏(26回生)が全会一致で承認されました。

また、二高附属中学校が開校して2年目ですが、同窓会としても、何らかの支援をしていく方向で意見が一致しました。

**各支部の
行事予定**

- 第42回同窓会** 関東支部総会
令和2年6月27日(土) 18時開会
お茶の水ホテルジュラック(東京都千代田区 神田淡路町二一九)
電話(〇三三) 三二五一七二二二
会費 二千元
- 第21回同窓会** 仙台支部総会
令和2年6月13日(土) 18時開会
千の庭(仙台市青葉区中央三一六一)ヤマダ電機(LA B1)八階
電話(〇二二) 七三八一八五二二三
会費 二千元
- 第45回同窓会** 納涼パーティー
令和2年8月8日(土) 18時開会
八戸パークホテル(八戸市吹上一) 十五一九七
電話(〇一七八) 四三一一一一
会費 二千元

結婚しました

○杉本 拓海さん(35回生)
おめでとうございます。

田村 理華
三年前、まだ桜の花がつぼみの頃、私は大きな不安と小さな希望を胸に入学した。
高校受験に失敗した私は、見返してやりたいという思いでSCクラスを選んだ。部活動の代わりに放課後講習や18時30分までの自習。体力、気力が続かず、居眠りしてしまふこともあった。しかし二年生になると、リズムに慣れて苦に感じるよりも勉強への意欲が強くなっていった。何故なら時には仲間、またある時にはライバルであるクラスメイトと、熱心な先生

方が出てくれたからだ。SCクラスはいつも勉強ばかりで大変そうといわれることもあるが、それも一つの青春だと思つてもいい。自分に生懸命になれる経験は、自分を強くしてくれる。私は、このクラスだったからこそ、探究心や行動力を身につけることができた。また、二高でなければ、きっと充実した日々は送れなかったらう。
最後に、共に支えあつた仲間、先輩方、学年を超えて受験指導してくださつた先生方には本当に感謝している。
二高での学校生活、すべてが私のアオハルだ。

卒業生からの声

吉田 悠馬
私にとつての二高での三年間は、すべてがかけがえないものだった。学外学習やボランティア活動に力を入れて二高。これが私にとって高校生活を充実させる重要なポイントだった。
私が一年次に参加した日本の次世代リーダー養成塾。日本とアジア各国の並外れた知識と行動力を持った高校生から、強い衝撃を受けた。私は社会を何も知らないという感じがした。それから多種多様な学外学習に参加。自己の知識と行動力を鍛え、自ら学生団体「L2MAN」を立ち上げ、活動を展開し

青森県内外から注目を集めるまでに成長することができた。
二高の学外学習等に積極的に取り組める環境と先生方の温かいサポートの体制や比較的自由な環境が、私をここまで伸ばしてくれたのだと思う。
生徒会長を一年間務めた際にも強く感じたが、多くの出会いと仲間、先生方など多くの方々のおかげで今の私がある。そう考えると、二高での三年間は本当にかげがえないものであり、皆様への感謝の気持ちは絶えない。改めて振り返ると、心の底から二高生で良かったと思う。

特集

活躍する先輩たち



カフェ『AMBER COFFEE』(アンバーコーヒー) 経営
佐々木 久美子 さん (32回生)

聞き手-同窓会事務局

1. 「アンバーコーヒー」はどんなお店でしょうか?
2. 仕事の魅力は何ですか? また、逆に大変なことはありますか?
3. カフェを経営することになったきっかけは?
4. 将来の展望は?
5. どんな高校生活を過ごしましたか?
6. 今年卒業する皆さんへメッセージをお願いします。



どそれぞれが様々な道に進むと思います。成功もあれば挫折もあると思います。どんな時も人生の主役は自分ですから、自分の意思を持って行動するのがとても大切だと思います。しかし忘れてはいけないのは、どの仕事どの道においても、誰かのためにやること、そして、だれかを喜ばせることは共通していることだと思います。このことを念頭におきながら、道はひとつだけではないので、たとえ失敗を経験したとしても、そこから何かを学び、後ろ向きにならず頑張つて欲しいです。
7. 最後に同窓会の皆さんへ一言お願いします。
八戸市へ帰省した際は是非アンバーコーヒーへ! 心を込めたコーヒーやお食事を提供いたします。

令和2年度 新幹事決定

関東地区幹事

- 一組 神山 晃明
二組 土屋 こみち
三組 大前 愛
四組 齊藤 遥
五組 吉田 悠馬
六組 北澤 直樹
七組 川井 果歩
八組 竹高 碧
九組 滝口 魁人
十組 藤嶋 壱成
十一組 木村 貴人
十二組 本郷 綺音
十三組 熊林 三華
十四組 渡邊 有羽
十五組 田畑 望羽
十六組 藤村 笑珠子

八戸地区幹事

- 一組 石村 優斗
二組 柏木 颯太
三組 平野 冴樹
四組 久慈 莉紗子
五組 小笠原 愛
六組 中屋敷 真生
七組 工藤 帆乃佳
八組 田名部 佑奈
九組 尾崎 実結
十組 小泉 斗耶
十一組 佐々木 晨斐
十二組 大渡 康輝
十三組 軒 英慎
十四組 田端 睦美
十五組 春日 千里
十六組 佐々木 涼
十七組 佐藤 亜衣子
十八組 佐藤 理子
十九組 工藤 果歩

同窓会からのお知らせ

住所の移転や進路の変更がある時には、返信用葉書または二高同窓会ホームページの住所変更フォームにてご連絡下さい。葉書には、氏名・住所・電話番号・メールアドレスの記載をお願いします。
また、同期会を開催の際は、案内状を事務局に連絡戴ければ、本部事務

局より援助金一万円を差上げます。
同窓会ホームページアドレス
http://www.koda12-ob.com/

二高の二つの一年

3月2日に卒業した44回生の進路報告をいたします。北海道教育大学釧路校3名、釧路公立大学、名寄市立大学、北見工業大学、青森公立大学2名、弘前大学、青森県立保健大学4名、岩手大学、岩手県立大学、秋田大学、秋田公立美術大学2名、山形大学3名、福島大学、筑波大学、東京芸術大学、東京学芸大学、以上の国公立大学で27名合格を果たしました。国公立短大では、岩手県立大学宮古短期大学部5名、山形県立米沢女子短期大学2名、会津大学短期大学部、以上の8名が合格しました。また私立大学では、日本医療科学、北海道科学大学2名、札幌学院大学、札幌大学、札幌国際大学、北海道医療大学、青森大学、八戸学院大学6名、八戸工業大学18名、弘前医療福祉大学、弘前学院大学2名、岩手医科大学3名、岩手保健医療大学2名、富士大学、盛岡大学2名、秋田看護福祉大学、東北学院大学3名、東北工業大学、東北福祉大学3名、宮城学院女子大学3名、日本赤十字秋田看護大学、東北芸術工科大学6名、いわき明星大学、仙台大学、つくば国際大学、国際医療福祉大学3名、作新学院大学、埼玉工業大学、日本医療科学大学、文教大学2名、平成国際大学、淑徳大学、千葉工業大学2名、麗澤大学、江戸川大学、聖徳大学、桜美林大学、共立女子大学、杏林大学、工学院大学、駒澤大学、女子美術大学、専修大学2名、大正大学、帝京大学、帝京平成大学2名、東京造形大学2名、日本社会事業大学2名、日本大学3名、法政大学2名、目



県高等学校総合体育大会ポスター 最優秀賞 2年 磯嶋洋平君の作品

18日、各学年で遠足が実施されました。3年生はクラスごとにバーベキューをしました。23日、1学年総合的な探究の時間において、「先輩から後輩への夢相伝講座」が実施され、県内で活躍している社会人の方々から、職業選択において重視することや、仕事をすることについて学びました。25日、27日、第40回高総文祭が行われました。美術工芸部門では美術コース2年生の清藤百花さんが最優秀賞を、同コース2年生の原杏美さんが優秀賞を受賞し、令和2年度高総文全国大会への出品が決まりました。また、写真部門では、美術コー



で実際に防火衣を着て放水、消火訓練を行いました。また、カレッジコースの生徒は、地域活性化についてのプレゼンテーションを英語で行いました。外国の方に聞いていただき、アドバイスをもったり、質問に答えてもらい、グローバルな物の見方を学びました。

同日、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市の公営住宅に生徒がボランティアとして訪問しました。美術コース生による絵画の寄贈や似顔絵プレゼントのほか、生徒会が主体となつてイベントを実施したり、八戸の郷土料理のせんべい汁を作つてあげるなど、現地の方との交流を行いました。



ス2年生のスターク栄美さんの作品が優秀賞を受賞し、同じく全国大会に推薦されました。囲碁部門では、カレッジコース1年生の木村美月さんが第2位、美術コース1年生の尾崎里々衣さんが第3位に入賞し、11月に八戸市で開催された東北大会に出場しました。27日、白神山地のトレッキングを行いました。ブナを中心とした植生観察をはじめ、隣接されている津軽ダムへの訪問や、ニシメヤ・ダムレイクツアーに参加して水陸両用バスの乗船見学を行いました。

対象に、青森県内の大学生約60名が集まり、「大学生による高校生へのキャリアサポート」が開催されました。大学生の皆さんから、自分の高校時代の振り返りや大学の学び、そして将来の夢を熱く語っていただきました。20日、明治大学の藤井剛先生をお招きし、1年生全員を対象に、青森県の現状を考えるグループワークを実施しました。生徒たちはそれぞれ興味のある分野を選び、ブレインストーミングやKJ法を用いて青森県の課題やその解決策を話し合い、発表しました。22日、26日、2学年修学旅行がありました。コースは広島・京都・奈良・大阪を巡り、平和への願いや日本文化を学びました。

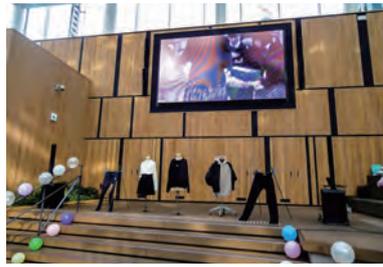
〈11月〉16日、1年生を対象に、青森県内の大学生約60名が集まり、「大学生による高校生へのキャリアサポート」が開催されました。大学生の皆さんから、自分の高校時代の振り返りや大学の学び、そして将来の夢を熱く語っていただきました。20日、明治大学の藤井剛先生をお招きし、1年生全員を対象に、青森県の現状を考えるグループワークを実施しました。生徒たちはそれぞれ興味のある分野を選び、ブレインストーミングやKJ法を用いて青森県の課題やその解決策を話し合い、発表しました。22日、26日、2学年修学旅行がありました。コースは広島・京都・奈良・大阪を巡り、平和への願いや日本文化を学びました。

〈12月〉8日、カレッジコース3年生の大前愛さんが、東京都内で行われた「第19回毎日パソコン入力コンクール全国大会」(毎日新聞社など主催)の「英文B」部門で全国3位に入賞しました。18日、三村申吾青森県知事が来校し、「知事とのフレッシュトーク」が開催されました。今後の青森県について、スライドを交えながら、ユニークな講演をしていたきました。26日、八戸市中心街の「マチニワ」にて「ひしコレ」が開催

されました。「ひしコレ」とは、八戸ひしぎしコレクションの略で、情報ビジネスコースの生徒が制作した装刺しの衣装を展示し、大型スクリーンでファッションショーの様子を放映しながら発表を行いました。



〈1月〉10日、12日にかけて、八戸ポータルミュージアムはつちにおいて美術コース作品展が行われました。



第21回仙台支部同窓会
R1. 6. 8 千の庭にて



第42回関東支部同窓会
R1. 6. 22 お茶の水ホテルジュラクにて

各同窓会パーティーに
皆様ご参加ください！
先生方や同窓生と一緒に
楽しい一時を過ごしませんか？



第44回同窓会納涼パーティー
R1. 8. 10 八戸パークホテルにて